

MAGOKORO



まごころ
平野総合病院 広報誌「誠心」 2025年2月号

平野恭弘 誠広会グループ会長が逝去

誠広会グループの創始者であり、会長である平野恭弘先生のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げますと共に、心よりご冥福をお祈りいたします。

昭和45年に平野医院を開院され、持ち前の決断力と実行力で、昭和60年には平野総合病院を開設するなど次々と新たな施設を開設し、誠広会グループを地域の医療、福祉、教育を担うグループに発展させました。

また、常に患者さん中心の医療を目指し、患者さんには親切に、決して怒らず、迅速に対応するようとの教えをいただきました。

これからも先生の理念を引き継ぎ、職員一同力を合わせ、地域の皆様から信頼される病院を目指して努力していきたいと思ひます。

平野総合病院 病院長 高田信幸

《平野恭弘会長略歴》

昭和34年	岐阜県立医科大学 卒業
昭和35年～昭和36年	岐阜県立医科大学 産婦人科教室 入局
昭和36年～昭和40年	岐阜県立医科大学大学院
昭和40年～昭和45年	美濃市立美濃病院 勤務
昭和45年10月	平野医院 開設
昭和51年5月	平野病院 名称変更
昭和60年10月	平野総合病院 名称変更
平成30年6月	平野総合病院 会長就任

《受賞歴》

平成2年	岐阜市学校保健会功労者表彰
平成7年	岐阜市教育委員会表彰 岐阜県医師会学校医部会永年校医表彰
平成9年	岐阜県教育功労者表彰
平成12年	岐阜県医師会永年代議員表彰
平成13年	岐阜県医師会永年開業医表彰
平成21年	岐阜市学校保健会感謝状
平成23年	岐阜県教育功労者表彰
平成27年	秋の叙勲 旭日小授章

医療法人社団 誠広会
平野総合病院

誠広会理念

医療法人社団 誠広会は、科学と人間愛に基づき

1. 地域住民の健康保持増進
2. 医学の研究、向上と医療技術の普及発展
3. 医療を通じて福祉サービスの充実向上につとめ、社会に貢献する

病院基本方針

1. 医療水準の向上に努め、疾病の早期発見と治療に努力します。
2. 合理的で効率的な運営を追求し、健全で安定した経営基盤の確立に努めます。
3. 地域医療機関との密接な連携を図り、地域における中核的病院としての役割を果たすように努めます。
4. 患者さんに満足していただけるサービスを提供します。
5. 職員の資質向上を図り、地域の人に信頼される病院を目指します。



巳年をテーマに、患者さんと切り絵を共同作成致しました。
これからも患者さんに寄り添う病院を目指して参ります。
本年も宜しくお願い致します。 看護師長一同



活動報告

地域貢献活動

当院は理念に基づく推進活動の一環として、地域貢献活動を行っております。
10月に開催された地域老人クラブ[黒野白寿会連合会様]による秋季健康福祉大会に専門職員を派遣し、講演活動を行いました。

フレイル予防の食事について 栄養課 管理栄養士 三浦峰子

この度、貴重なお時間をいただきました。

フレイルとは、健康な状態と要介護状態(日常生活でサポートが必要な状態)の中間の状態です。又、[虚弱]とも呼ばれています。

65歳頃からはメタボ対策から低栄養対策へ[ギアチェンジ]が必要になり、体重の減少がないかを定期的に確認することが重要です。

フレイル予防の食事としての3つの注意事項

①1日3食バランスの良い食事

主食(ご飯、パン、麺など)主菜(肉、魚、卵、大豆、大豆製品、乳製品など)副菜(野菜、果物、海藻、きのこなど)をバランスよく食べましょう。
しっかり食べる事で十分なたんぱく質、エネルギーが取れます。

量が食べられない場合は、メインの料理(たんぱく質)から食べましょう。

②ウォーキング、体操、筋トレなどを日常生活に少しずつ取り入れ、毎日継続しましょう。

③家族・友人との会話、地域のボランティア活動、町内会行事の参加など自分に合った活動を見つけて、社会とのつながりを大切にしましょう。

フレイルは予防できると言われています。バランス良い食事を心がけ、家族・友人との時間を作り、楽しく元気に予防に取り組みましょう。



膝を長持ちさせるコツ リハビリテーション課 理学療法士 尾崎康二

「ひざを長持ちさせるコツ」と題して講演をさせていただく機会をいただき、100名を超える大勢の方に膝の構造や筋肉の鍛え方などについてお話をさせていただきました。

膝関節内の病気で変形性膝関節症や半月板損傷、靱帯損傷などがあげられますが、病院に通われていなくても、膝に問題を抱える患者さんを数多く見受けられます。

今回は、少しでも長く今の状態を保ち、膝を使い続けられるコツをお伝えさせていただきました。

病院での患者さんとの1対1の場面とは違い、実際に身体に触れながらの指導は出来なかったため伝わりにくい部分も多かったかも知れませんが、ご自分の膝を触って頂きながら熱心に聞いていただけた方も多くいらっしゃったことがとても印象的でした。また、講演終了後に何人かの方に個別にお声かけいただき身体の痛みなどについての質問をしていただけたことから、日頃から身体の悩みを持たれている方が多いということを改めて実感しました。今後もリハビリテーション専門職として、病院でのリハビリ場面以外でも少しでも地域の皆様に貢献できるよう努めていきたいと思っております。



当院では地域活動の一環として、専門職員による健康福祉に関する講演等を行っております。
是非、地域・職場の皆様の健康増進にお役立て下さい。

看護部

スキルアップ研修：身体拘束の最小化に向けて

看護部長 山内久美子

平成医療短期大学の老年看護専門看護師の三輪陽子先生をお招きして、「身体拘束の最小化」について、職員研修を9月22日・11月22日の2回開催しました。

身体拘束には、3種類の拘束[通称：スリーロック]と呼ばれるものがあります。

①物理的身体拘束(フィジカルロック)

拘束帯で身体を固定する・ベッドに柵を設ける・自力で立ち上がれないような椅子に座らせる・点滴を抜かないようにミトンを装着させる等、行動の自由を奪う行為です。

②言葉の拘束(スピーチロック)

「○○しないで」「ちょっと待って!」などの言葉により、行動を制限する事です。どんな言葉が該当するか明確な定義がない為、無意識にスピーチロックをしてしまう事も少なくありません。

③薬物による拘束(ドラッグロック)

睡眠導入剤や安定剤などを不適切に投与する事によって、夜の徘徊や頻回にある排せつなどの行動を制限する事です。

身体拘束は、緊急やむを得ない場合の三つの要件を検討する必要があります。まずは、本人の尊厳を守ることを第一に考えることです。

- (1) 切迫性(利用者本人または他の利用者等の生命又は身体が危険にさらされる可能性が著しく高いこと)
- (2) 非代替性(身体拘束その他の行動制限を行う以外に代替する介助方法がないこと)
- (3) 一時性(身体拘束その他の行動制限が一時的なものであること)

私たちは、患者さんが安心して穏やかに入院していただけるように看護しております。今回の研修を受けて、改めてすべての人が、「生命」をはじめ、その人がもつ権利が護られ、誇りをもった一人の人間として、その人らしく暮らし続けていくことができるように支援する視点が求められると学びました。

患者さんを見て、一瞬に「きれい」「姿がよい」「様子がよい」とわかるような心地よい援助を提供していきたいと考えます。



病棟だより

入院病棟では今年度、療養生活向上を目的として各種機能を備えた最新の機材を導入致しました。その一部をご紹介します。

新床頭台

床頭台を新しく入れ替えました。

震度7でも倒れにくい設計となっている他、テレビ・セーフティボックス・冷蔵庫・充電用コンセント等のシステムを備えており、入院生活をより安全・安心・快適に過ごしていただけます。これまでのテレビカード購入式から、便利な定額制でご利用いただけるようになりました。



離床センサー付き電動ベッド

電動ベッドを導入しました。食事前のギャッジアップ時、足が少し上がりその後、頭を自由な角度で上げることができ背部のズレ予防ができます。また清潔ケアの時に高さの調整が簡単にできることから、介助者の腰の負担軽減につながります。自分でコントローラーを使用できる患者さんは、起き上がりが自由に楽にできるようになり喜ばれています。そして、離床センサー機能が付いておりナースコール代わりに使用できます。認知症や筋力低下した患者さんが起きた時、端坐位になった時、ベッドから離れた時など、状況に合わせて設定でき、ベッドからの転落・転倒予防に役立ち活用しています。